

# 2016年度業種別部会年間報告

## 1. 関東金属機械部会

### 1. 部会運営について

今年度の部会運営方針は次の通りである。

- ・有益な知財情報を提供し、会員相互が意見交換できる機会を提供する。
- ・多くの会員が積極的に参加できる部会運営を目指す。

### 2. 部会活動について

第1回から第5回の部会を実施し、総出席者人数は計443名、総出席会員企業数が計324社と、昨年より少ない結果であった。

運営方針に基づき、より有益な知財情報の会員の方への提供の場となるように複数部構成の部会を2度行うことで講演の回数を増やした。

本年度は、初めての試みとして、第4回の部会で、知財担当者数の少ない3社の方々にご講演をいただき、幅広い会員企業の要望に応えるよう工夫した。さらに、昨年度に引き続き講演前に参加者間の名刺交換を行うことで、会員企業間の交流を図った。

#### (1) 第1回部会

グローバル・アイピー東京特許業務法人 高橋明雄氏から「ASEAN特許実務入門」と題して講演していただいた。

日本企業からのニーズが相対的に高い6ヶ国（シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、タイ、ベトナム）について特許制度概要、現地代理人、出願手続き、現地語翻訳、実用新案制度概要、特許調査と幅広く、各国について横並びでご説明いただき、全体を俯瞰する情報整理がなされた。

質疑では、委任状、タイの審査の実体、職務発明、現地の明細書自体の質など多岐に亘る質問があり、高橋氏による丁寧なご回答をいただいた。

講演後、講師の方にもご参加頂き、懇親会を行った。意見交換および親睦・交流をより深め

ることができ、有意義な懇親会となった。

#### (2) 第2回部会

元キャノン(株) 知財コンサルタント&アナリスト 菅田正夫氏から「知財人材育成の実際」と題して講演していただいた。キャノンでのご経験を通じて得られた知見に基づき、求められる基本スキル、カリキュラムの実際、必要な自己啓発、人材育成をご講演いただき、企業活動における知財マンの役割として、企業が望む特許を出せること、そして特許戦略を提言できることを挙げていただいた。

また、講演会後にビール工場見学及び懇親会を行い、会員の交流促進を図ることができた。

#### (3) 第3回部会

昨年同様に講演会を二部構成で実施し、翌日に施設見学を行うことにより、普段と異なる環境で参加者間の親睦を深めることができた。

[第一日目]

##### ■第一部

YKK(株) 法務・知的財産部知的財産グループ グループ長 林隆典氏から「YKK知財活動概要」と題して講演していただいた。

YKK様の会社概況ならびに事業の特徴と、それに応じた知財活動をご紹介いただいた。原材料の開発から設備開発・製造まで一貫生産体制を備え、主力のスライドファスナー製造装置も内製しており、知財活動について「秘匿、出願、公知化」の組合せを行っていること、そして権利活用の一つとして、顧客企業と協働で模倣対策を行うBPP (Brand Protection Partnership) についてご説明いただいた。

##### ■第二部

金沢大学 人間社会研究域法学系 教授 大友信秀氏から「知財を活かすためのブランディング・マーケティングと販売戦略」と題して講演して頂いた。自社のブランド・アイデンティティを特定し、それを顧客に伝えることの必要性を説明していただいた。また、経営全般の

課題として、抽象化（国際的視野，異業種，新しいことへの挑戦）と具体化（ドメスティックな視点，ローカルな視点，現場主義）が重要となる点をお話しいただいた。

#### ■懇親会

講演会后，両講師にもご参加頂き，宿泊場所の金太郎温泉にて懇親会を開催した。参加者による自己紹介も行い，相互の親睦がより図られた。大友氏には宿泊および翌日もご同席いただき，多くの意見交換の場が得られた。

[第2日目]

YKKセンターパークにて，YKKグループの設立からの歩みと基本理念である「善の巡環」について学ぶとともに，製造工程等を見学し，知財権確保の重要性を再認識した。

#### (4) 第4回部会

##### ■第一部

旭精工(株) 総務部法務課 西方督氏から「旭精工(株)における知的財産活動について」と題して講演していただいた。

「他人のマネはするな。特許が取得できる製品を開発せよ」という開発方針及び戦略的経営ポイントの「世界から信用される技術に裏付けられた製品開発」などの方針を基に開発型企业として知的財産を最大限活用するために取り組んでいることをご紹介いただいた。

##### ■第二部

伸和コントロールズ(株) 経営企画本部 法務・知財担当 高山暎男氏，開発本部 信頼性技術課 猶原康宏氏，長野事業所 開発センター 常田雄介氏から「伸和コントロールズ(株)における知的財産活動について」と題して講演していただいた。「我が社の権利を侵害する者は絶対に許さない」をスローガンとする知財戦略を会社の重要戦略の一つに位置付け，積極的な活動をされていることをご紹介いただいた。研究・開発活動における発明(アイデア)の創生・発掘においてTRIZなどの発想法を取り入れるとともに，発明の本質を導き出すまでの過程を「発明の本質シート」に纏め，特許性判断や出願国等の判断を開発部門管理職，設計担当，営

業担当，知財担当などより構成される知財戦略会議で行っていること等をご紹介いただいた。

#### ■第三部

レーザーテック(株) 技術企画室 知的財産担当 スタッフエンジニア 小川潔氏から「レーザーテック(株)における知的財産活動について」と題して講演していただいた。中小企業における知財管理のポイントとして，自社の特徴を生かした知財管理体制，仕組み構築，ITを利用した社内システムによる知財活動の効率化等を挙げていただいた。

講演会后，講師の皆様にもご参加いただき，Honda青山ビル6Fレストランにて懇親会を行い，相互の親睦がより図られた。また，近藤理事長には講演会から懇親会までご参加いただいたことで，関東金属機械部会の雰囲気を感じていただけたと思っている。

#### (5) 第5回部会

弁護士法人 内田・鮫島法律事務所 弁護士・弁理士 鮫島正洋氏から「知財戦略のススメとその実践ーコモディティ化時代の事業・知財戦略と権利行使に至るまでのデシジョン・プロセスについて」と題して講演して頂いた。知財戦略セオリ，その適応限界，権利行使のプロセス論のパートに分け，判りやすくご説明いただいた。

技術・知財で勝る日本企業がシェアを落とす原因の一つに，製品に特許権の及ばない時代（製品における高ステージ化）が訪れ，技術のコモディティ化が生じ，それをビジネス戦略として取り込めていないことが挙げられること，そして，コモディティ化した場合でも，技術の高性能化や新たな市場に技術を応用することによりコモディティ化が解消する場合もあるため，構造変化に対して早くに開発を着手し必須特許を得て先発者となることが必要との説明がなされた。

講演会后，懇親会を行い，会員間相互の親睦・交流を深めることができた。

## 関東金属機械部会行事一覧

回	日程・会場	講演テーマ・講師	参加数
第1回	6月17日(金) 全国家電会館	「ASEAN特許実務入門」 グローバル・アイピー東京特許業務法人 高橋 明雄氏	68社 87名
第2回	8月26日(金) キリンビール 横浜工場	「知財人材育成の実際」 元キヤノン(株) 知財コンサルタント&アナリスト 菅田 正夫氏	71社 102名
第3回 (宿泊)	10月21日(金) ～22日(土) 金太郎温泉 YKKセンターパーク	YKK(株) 法務・知的財産部 知的財産グループ グループ長 林 隆典氏 金沢大学人間社会研究域 法学系 教授 大友 信秀氏	31社 (19社) 38名 (26名)
第4回	11月29日(火) Honda青山ビル	知恵と知財でがんばる中小企業(各社の知財活動報告) 旭精工(株), 伸和コントロールズ(株), レーザーテック(株)	69社 84名
第5回	3月1日(水) JFE本社ビル	「知財戦略のススメとその実践-コモディティ化時代の事業・知財戦略と権利行使に至るまでのディシジョン・プロセスについて」 内田・鮫島法律事務所 代表パートナー 鮫島 正洋氏	85社 132名

## 2. 関東電気機器部会

### 1. 活動方針

活動方針は前年を踏襲し次の3点とした。

- ・ 会員相互や講師との交流の場を増やす
- ・ 参加しやすい内容作りに努め参加者の幅の拡大を図る
- ・ 多岐にわたる業種や知財業務経験等を考慮し会員の希望を出来るだけ反映した運営を行う

### 2. 活動実績

#### (1) 第1回

今年度の部会活動方針の説明後、長島・大野・常松法律事務所 弁護士・弁理士の山内貴博氏から「営業秘密の保護に関する新しい動きと実務的課題」と題してご講演頂いた。

営業秘密管理指針が2015年に全面的に改訂され、裁判で争点となる秘密管理性の要件の厳しさが緩和されたことにより、営業秘密の認定範囲が従来に比べ広く認定されるようになるのではないかとお話があった。続いて、刑事対応と民事対応の適用範囲とそれぞれの注意点が示された。証拠収集能力(搜索差押), 密行性(内偵捜査)及び成功時のインパクトの優位性から「刑事」を先に検討し、うまくいかない部分を「民事」で代行するのがお勧めとのこと。その後の

テーブルディスカッションでは、「営業秘密を使用しているとの警告を受けたときの知財部員の対応」というテーマでグループ討議を行い結果を発表し合った。理解が深まり大変有意義であった。

#### (2) 第2回

関東・関西合同電気機器部会としてコマツ金沢工場を見学した後、「コマツの成長戦略と知財活動の取組み」と題して、同社CTO室知財部長の山口博明氏にご講演を頂いた。ダントツ商品、ダントツサービス、ダントツソリューションがコマツの成長戦略である旨と、それぞれの事例についてお話があった。とくに建設機械で導入している「KOMTRAX」による稼働車両のみえる化は大変興味深いお話しであった。知財活動に関しては、特許訴訟、模倣品・商標問題の社内対応体制、オープンイノベーションへの取組について大変参考となるお話を頂いた。

講演会終了後、ゆのくに天祥に移動し懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めた。

#### (3) 第3回

異業種見学会として海洋研究開発機構横須賀本部を訪問し、有人潜水調査船「しんかい6500」や、海底広域研究船「かいめい」の船内、同機構が保有する船舶の模型や深海生物標本等

を展示している海洋科学技術館を見学した。要所毎の丁寧な解説のおかげで理解が深まり、大変有意義な施設見学であった。その後、バスで講演会場の横浜テクノタワーホテルへ移動し、同機構のイノベーション・事業推進部長山田康夫氏より「海洋研究開発機構の進める研究開発と深海発イノベーションへの取り組み」と題してご講演を頂いた。同機構の概要、沿革、研究課題について興味深い映像とともにご紹介いただいた後、深海探査、シミュレーション事業の出願権利化活動等の知財活動の現状についてお話しを頂いた。大変貴重な体験ができた。

#### (4) 第4回

3つの会場で同時に講演を行う形式で部会を開催した。それぞれの会場では、伊東国際特許事務所弁理士の鶴谷祐二氏による「ASEAN諸国での知財保護に関する統計的分析、権利化にあたり注意すべき事項、ブランド保護のために注意すべき事項」、同事務所弁理士の横山淳一氏による「非出願の職務発明に対する報奨」、秀和特許事務所弁理士の高田大輔氏及び中村剛氏による「米国特許法101条に対する特許出願人の対応について」並びに河野特許事務所弁理士の河野英仁氏による「中国における技術的範囲の解釈～事例を通じて中国クレーム解釈のコツをつかむ～」と題した4テーマの講演を実施した。

講演後は各会場においてテーブルディスカッションを行った。理解が深まり大変有意義であ

った。その後の懇親会では、講師の方々を交え、会員相互の交流・親睦を深めた。

#### (5) 第5回

今年度の部会活動結果を報告後、「中国における知的財産権行使の環境と実務」と題してIP FORWARDグループ弁護士・弁理士の分部悠介氏にご講演頂いた。中国での権利登録と営業秘密の留意点、権利侵害への対応フローと留意点、権利侵害対応における司法ルートと行政ルートのそれぞれの特徴と今後の法改正の見込み、裁判事例からみた留意点として非侵害確認訴訟と商標冒認出願への対策の紹介、といった実務に則した内容の濃いご講演を頂いた。その後、「中国で特許権侵害を発見した場合に、知財部員が取るべき対応」というテーマでグループディスカッションを行った。中国で知的財産権を行使する場合の理解が深まり、大変有意義であった。

#### 3. むすび

皆様の意見を基に今後もより良い部会とするように活動して参りますので、次年度もご協力のほどよろしくお願いいたします。

最後に、今年度の部会の企画、運営にあたり、日本知的財産協会関係者、会員各位、部会役員・幹事OBの方々、講師の方々、施設見学の関係者の方々に、多大なご支援・ご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。また、業務多忙の中、部会の企画、準備、運営等に積極的に携わって頂いた幹事の皆様、そして幹事を派遣頂いた会員各位に心から感謝申し上げます。

#### 関東電気機器部会行事一覧

部会	開催日・場所	出席数	内 容
第1回 講演	6月8日(水) アルカディア市ヶ谷	68社 81名	1. 講演：長島・大野・常松法律事務所 弁護士・弁理士・米NY州弁護士 山内 貴博氏 「営業秘密の保護に関する新しい動きと実務的課題」 2. テーブルディスカッション 3. 懇親会
第2回 東西合同	9月2日(金) ～3日(土) コマツ金沢工場	58社 64名 (関東)	1. 工場見学：コマツ金沢工場 2. 講演：(株)小松製作所 CTO室 知的財産部長 山口 博明氏 「コマツの成長戦略と知財活動の取組み」 3. 懇親会

第3回 異業種 見学会	10月14日（金） 見学：海洋研究開発 機構（横須賀）、 講演・懇親会：横浜 テクノタワーホテル	51社 63名	1. 工場見学：国立研究開発法人 海洋研究開発機構 横須賀本部 2. 講演：国立研究開発法人 海洋研究開発機構 イノベーション・事業推進部 部長 山田 康夫氏 「海洋研究開発機構の進める研究開発と深海発イノベーションへの 取り組み」 3. 懇親会
第4回 講演	12月2日（金） アルカディア市ヶ谷 （千代田区）	94社 95名	1. 講演 （1-1）伊東国際特許事務所 副所長・弁理士 鶴谷 裕二氏、 「ASEAN諸国での知財保護に関する統計的分析、権利化にあたり 注意すべき事項、ブランド保護のために注意すべき事項」 （1-2）伊東国際特許事務所 所長代理・弁理士 横山 淳一氏、 「非出願の職務発明に対する報奨」 （2）秀和特許事務所 理事・弁理士 高田 大輔氏、所長代理・弁 理士 中村 剛氏、「米国特許法101条に対する特許出願人の対 応について」 （3）河野特許事務所 所長・弁理士 河野 英仁氏、 「中国における技術的範囲の解釈～事例を通じて中国クレーム解 釈のコツをつかむ～」 2. テーブルディスカッション（3会場で個別に） 3. 懇親会
第5回 講演	3月3日（金） ゲートシティ大崎 イーストタワー	53社 61名	1. 講演：IP FORWARDグループ総代表・CEO, IP FORWARD法律 特許事務所 代表弁護士・弁理士, IP FORWARD China 董事長・総経理 分部 悠介氏、 「中国における知的財産権行使の環境と実務」 2. テーブルディスカッション 3. 懇親会

### 3. 関東化学第一部会

#### 1. 部会の運営について

前年と同じく「人の繋がり」と「知財力UP」をキーワードに、以下のような方針で運営を行った。

- ①多くの会員（特に若手や女性）が参加しやすく、会員のグローバルかつ広範な知財活動（特許に限定せず、商標や知財戦略なども視野に入れた）に役立つ部会の企画・運営を図る
- ②会員相互の親睦と研鑽を目的として、業種や世代を超え、人的交流の図れる場を提供する
- ③会員相互の情報交換や会員が興味あると思われる情報を提供することにより、会員の知財力UPを図る

#### 2. 部会活動について

例年通り、5回の部会を開催し、その延べ参加者数は370名であった。部会ごとに若干バラ

つきはあるものの、参加者の男女比はおおよそ8：2であった。概要は以下の通りである（次頁表参照）。

##### (1) 第1回部会（講演会）

技術と経営アドバイザー（元キヤノン株材料技術研究所長）の村井啓一氏から「企業の収益性と持続的成長を決定する特許活動」という演題で、企業の持続的成長におけるイノベーション創出とその早期特許出願の重要性、世界シェア・財務諸表から見た特許戦略の評価などについてご講演いただいた。

また、2016年度部会活動計画説明と役員・幹事からの挨拶を行った。

##### (2) 第2回部会（バス部会）

草加煎餅丸草一福の工場にて見学と手焼き体験、雪印メグミルク株野田工場見学の後、同工場にて同社知財グループ担当部長の小林章裕氏から「雪印メグミルクの消費者重視経営と知財グループ業務」という演題で、市場がコモディティ化している食品市場における特許の特徴、

同社の歴史や消費者重視経営の実践の実例紹介と知財活動などについてご講演をいただいた。

(3) 第3回部会（講演会）

楽天(株)法務部知的財産課から、今枝真一氏、今村剛氏、安田麻衣子氏の三氏にご登壇いただき、「楽天における知財活動－ブランド活動と特許活動－」という演題で、グローバルでボーダレスにビジネスを展開しておられる同社の会社概要と知財活動概況、ブランド・商標・ドメインの3チームで連携して構築・管理を行っておられるブランド商標活動、電子商取引から色々なビジネスへ展開してきたため高まった知財リスクへの対応を含めた知財戦略などについてご講演いただいた。

(4) 第4回部会（宿泊部会）

(株)神戸製鋼所加古川製鉄所内をバスで見学した後、同社技術開発センターにて、同社知的財産部部長の亀岡誠司氏から「(株)神戸製鋼所の複合経営と知財活動」という演題で、同社の事業・歴史・開発と知財の体制・知財活動方針などの総論、鉄鋼事業／溶接事業／アルミ・銅事業／機械事業／エンジニアリング事業／建設機械分野の各事業部門の業界におけるプレゼンスと知財活動の特徴などについてご講演いただいた。講演後、有馬温泉月光園遊月山荘に移動し、懇親会を開催し、参加者間で親睦・交流を深めることができた。翌日は神戸市へ移動し、カワサキワールド見学と船上から神戸港や神戸の街並び、造船所などを見学した。

(5) 第5回部会（講演会）

トヨタ自動車(株)知的財産部企画統括室 室付主幹の伊藤公一氏より、「トヨタのオープンイ

ノベーションと知財戦略」という演題で、同社の紹介、馬車から自動車への技術革新と自動車業界を取り巻く環境、クルマ単体ではなく「繋がる社会」実現に向けたオープンイノベーションに対する取組みと知財戦略などについてご講演いただいた。

最後に2016年度部会活動実績報告と退任する役員・正幹事から挨拶を行った。

(6) 化学関連東西合同幹事会

(2016年9月9日（金）～10日（土））

今年度は弊部会が開催を担当し、関東化学第一部会（9名）、関東化学第二・商社部会（9名）、関西化学部会（3名）の計21名が参加した。まず、スズキ歴史館を見学し、その後浜名湖かんざんじ温泉館山寺サゴロイヤルホテルに移動し、同ホテルの会議室にて「各部会の運営と現状」、「参加各社の紹介」について説明した後、「知財部門の在り方」について、全員でフリーディスカッションを行った。その後同ホテルにて懇親会を行い、情報を交換するとともに、親交を深めることができた。

3. むすび

今年度部会の企画・運営にあたり、日本知的財産協会の関係者、会員各位、部会幹事OBの皆様、講師の方々などから多くのご助言・ご指導・ご協力を賜り、円滑に部会活動を行うことができましたことに対し、厚く御礼申し上げます。また、多忙の中、精力的に準備等に当たっていただいた正副幹事の皆様、幹事を派遣していただいた会員各位に心から深く感謝申し上げます。

関東化学第一部会活動概要

部会	日時	参加数	内 容
第1回 (講演)	2016年6月6日（月）	80社 103名	1. 講師 技術と経営アドバイザー (元キヤノン(株)材料技術研究所長) 村井 啓一氏 演題 「企業の収益性と持続的成長を決定する特許活動」 会場 全国家電会館 2. 懇親会 (講師含め29名参加)

第2回 (バス)	2016年7月8日(金)	32社 39名	1. 見学①草加煎餅丸草一福 見学②雪印メグミルク(株) 野田工場 2. 講師 雪印メグミルク(株) 知財グループ 担当部長 小林 章裕氏 演題 「雪印メグミルクの消費者重視経営と知財グループ業務」 3. 懇親会(南越谷ココチーノ)
第3回 (講演)	2016年10月7日(金)	67社 86名	1. 講師 楽天(株) 法務部 知的財産課 シニアマネージャー 今枝 真一氏 商標Grマネージャー 今村 剛氏 商標GrヴァイスM 安田 麻衣子氏 演題 「楽天における知財活動ーブランド活動と特許活動ー」 会場 全国家電会館 2. 懇親会(講師, JIPA理事長含め31名参加)
第4回 (宿泊)	2016年11月18日(金) ~19日(土)	29社 32名	1. 見学①(株)神戸製鋼所 加古川製鉄所 見学②カワサキワールド 見学③神戸港クルーズ 2. 講師 (株)神戸製鋼所 知的財産部 部長 亀岡 誠司氏 演題 「(株)神戸製鋼所の複合経営と知財活動」 3. 宿泊・懇親会 有馬温泉 月光園游月山荘
第5回 (講演)	2017年2月17日(金)	83社 110名	1. 講師 トヨタ自動車(株) 知的財産部 企画統括室 室付 主幹 伊藤 公一氏 演題 「トヨタのオープンイノベーションと知財戦略」 会場 全国家電会館 2. 懇親会(30名参加)

#### 4. 関東化学第二・商社部会

##### 1. 運営方針

下記方針により本年度の部会を運営した。

(1) 事業貢献に寄与し得る知財活動の推進を図るため、会員の関心が高い価値ある情報を提供する。(2) 会員相互の円滑なコミュニケーションのために、会員相互の親睦と情報交換の場を提供する。

##### 2. 部会活動

###### (1) 第1回部会

「知財戦略のススメ 知財マネジメントのあるべき姿を探る」と題して、弁護士法人内田・鮫島法律事務所の弁護士 鮫島正洋氏に、事業戦略と知財との因果関係としての知財戦略セオリー、その限界論や知財マネジメントに対する応用方法についてご講演頂いた。

###### (2) 第2回部会

「キリングループの知的財産活動」と題して、キリン(株)R&D本部の知的財産部長 水谷悟氏に、キリングループの事業の変遷と現在の事業

内容、それらを支える知的財産活動の概要、知財化技術の事例についてご講演頂いた。

併せて、キリンビール(株)横浜工場の見学を行い、ビール製造工程の映像、展示物を通じてご案内頂いた。

###### (3) 第3回部会

講演会と税関見学を宿泊部会形式で開催した。講演会は、「税関における知的財産侵害物品の水際取締りについて」と題して、函館税関業務部の知的財産調査官 西出真志氏、同知的財産調査官付上席調査官 磯場厚子氏に、輸入差止申立制度や昨年の差止事例を交え、税関における知的財産侵害物品の水際取締りの取組み状況についてご講演頂いた。

併せて、函館税関及び税関資料展示室の見学を行い、函館税関総務部の税関広報広聴官 茂木満氏にご解説頂いた。

###### (4) 第4回部会

「知的財産の経済的価値評価ー財務・税務戦略を含めた「四位一体の知財戦略」ー」と題して、デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー

リー合同会社知的財産グループのシニアヴァイスプレジデント 小林誠氏に、経営・ビジネス・財務会計的観点やM&A実務の観点から、最近のトピックと知的財産価値評価の実務、知的財産取引における会計・税務上の留意点や知的財産に関連するBEPS (Base Erosion and Profit Shifting) プロジェクトの動向についてご講演頂いた。

#### (5) 第5回部会

「近時の知財判決の紹介」と題して、阿部・井窪・片山法律事務所の弁護士 片山英二氏、弁護士 黒田薫氏に、特許権存続期間の延長登録がなされた特許権の効力に関する大合議判決、PBPクレームに関する最高裁判決後の知財高裁判決についてご講演頂いた。

#### (6) 化学関連東西合同幹事会

関西化学部会、関東化学第一部会及び当部会の各幹事から、各部会の運営、現状を紹介し、今後の部会運営の参考とした。また「知財部門

の在り方」をテーマとし、各社での知財部門の組織、経営層・発明部門との連携について意見交換を行った。またスズキ(株)のスズキ歴史館を見学し、スズキ製品についての理解を深めた。

#### 3. むすび

会員企業の関心が高い話題(講師)を取り上げること、ならびに部会の講演内容のバランスを取ることを基本方針として、部会の講演テーマ及び講師の検討を実施し、宿泊部会1回を含む計5回の部会を開催した。いずれの部会も想定を超える会員参加のもと、講演会での活発な質疑や懇親会での交流も含め、活動方針に沿った部会活動を無事終えることができた。

全部会とも盛会のうちに終えることができたのは、会員各位、講師の方々、施設等をご提供頂いた方々、および日本知的財産協会事務局など、多数の方々のご厚意とご協力によるものと感じております。この場をかりて、心より御礼を申し上げます。

#### 関東化学第二・商社部会行事一覧

	開催日	参加者	部会形式/会場	演 題	講 師
1	5月20日(金)	67社 113名	【講演会】 北とぴあ スカイホール	知財戦略のススメ 知財マネジメントのあるべき姿を探る	内田・鮫島法律事務所 弁護士 鮫島 正洋氏
2	7月29日(金)	56社 85名	【講演会】 キリン(株) 横浜工場	キリングループの知的財産活動	キリン(株) 知的財産部長 水谷 悟氏
3	10月21日(金) ~22日(土)	23社 28名	【講演会】 サンリフレ函館 【税関見学】 函館税関	税関における知的財産侵害物品の水際取締りについて	函館税関 業務部 西出 真志氏 磯場 厚子氏
4	11月18日(金)	61社 79名	【講演会】 持田製薬(株) ルークホール	知的財産の経済的価値評価 -財務・税務戦略を含めた「四位一体の知財戦略」-	デロイト トーマツ 小林 誠氏
5	2017年 2月17日(金)	61社 80名	【講演会】 北とぴあ スカイホール	近時の知財判決の紹介 ・延長特許権-分析と検討 ・PBP最高裁判決後の知財高裁判決	阿部・井窪・片山法律事務所 弁護士 片山 英二氏 弁護士 黒田 薫氏



## 5. 関西金属機械部会

### 1. 運営方針

当協会の基本方針にしたがい、特に「JIPA 内部活動の活性化」に重点を置いて、当部会を下記方針で運営した。

#### 【基本方針】：

事業に役立つ知財情報の提供と、企業間交流の活性化

#### 【具体的な内容】：

(1) グローバル戦略から日々の知財戦術までにわたる幅広い知財情報の提供

(2) 業界・世代・性別を超えた人的交流の促進

(3) 企業間交流の活性化や、有用な情報提供による会員の知財力アップ

### 2. 部会活動

上記の基本方針に従い、別表に示す通り5回の部会を開催し、その概要は以下の通りである。

#### (1) 第1回部会

大阪市北区の象印マホービン(株)本社に併設されている「まほうびん記念館」を見学した後、本年度の部会運営方針と活動計画を説明し、正林国際特許商標事務所 所長・弁理士 正林真之氏に、「もしP. F. ドラッカーの理論を知財部に応用したら～新しい知財リーダーのため」と題してご講演頂いた。この講演では、「思想家」であるP. F. ドラッカー氏の言葉に、「成長の機会というものは、どのような状況にあっても扉を叩く。」とあり、IBMも当初は吹けば飛ぶような弱小メーカーから、世界の巨人へと成長する基盤を築いた。また「成長する機会というものは、それに値する者の扉だけを叩く。」とあり、これは経営者に向けたものである。この理論を知財部及び知財リーダーに適用したらという観点で、知財におけるビジネス・マネジメントの重要性について詳細に説明いただいた。

#### (2) 第2回部会

京都市下京区のオムロン(株)本社に併設されている「コミュニケーションプラザを見学した後、サントリーホールディングス(株) リスクマネジ

メント本部 商標部長 高本知己氏に、「サントリーのブランド保護活動」と題してサントリーの考え方をご紹介頂いた。サントリーは、「人と自然と響きあう」という企業理念のもと、「水と生きる」をコーポレートメッセージとして、ブランド価値の維持・向上に努めておられ、「コーポレートブランドとプロダクトブランド」の具体的な使い方や、「黒烏龍茶裁判」において商標・意匠・不競法等をフル活用した事例として詳細に紹介いただいた。また「音、色彩、位置、動き」といった新しいタイプの商標の出願事例についても説明いただいた。

#### (3) 第3回部会

例年通り、関西三業種合同部会（金属機械、電機機器、化学）として開催し、初日の部会・講演会は広島県福山市のエム・シー福山で、懇親会は福山ニューキャッスルホテルで開催した。翌日は会場を広島県尾道市因島に移し、万田発酵(株)の本社工場および「万田びっくりファーム」という試験農場を見学した。

初日は近藤理事長による開会挨拶、久慈専務理事による会務報告後、2件の講演をいただいた。

1件目の講演は、久慈専務理事に「第4次産業革命に知財部門が準備すべきこと」と題して講演いただいた。この講演では、IoT、BD、AIは産業に大きな変化をもたらすが、現段階で知っておくべきこととして、IoT、BD、AIの利活用や、日米欧の直面している課題についてご説明いただいた。また変化への対応として企業知財が今から準備すべきこととして、オープンイノベーション(OI)とそのための人材の準備、さらには共同開発から共同ビジネスへの変化が重要であり、OIを加速させる上で、知財部門は企業間連携のために知財ネットワークが使えるし、情報量も多く、協調と戦略の違いも理解しており、全部が知財の仕事に近いところにあるので、これからは知財部門が中心となって変革していく時期であると力強いメッセージをいただいた。

2件目の講演は、中国電力(株)エネルギー総合

研究所 執行役員 知財部長 味能弘之氏に「電力システム改革とエネルギー丸の知財戦略」と題して、一昨年4月から始まった広域的な送配電線運用の拡大、昨年4月から全面自由化された電力小売・発電事業、そして平成32年に予定されている送配電部門の法的分離という「電力システム改革」と、中国電力の知財戦略について講演いただいた。電力自由化進展による経営環境の変化が契機となり、新規参入事業者リスクが高まったが、2003年に「中国電力グループ知財戦略基本方針」を制定し、2007年までに戦略的事業領域において知財での他社優位体制の構築を目指して施策を展開され、エネルギー業界で特許出願件数がトップとなり、特許登録率も94%以上、2011年に知財功労賞（経済産業大臣表彰）受賞等の具体的な成果について説明いただいた。

#### (4) 第4回部会

例年通り大阪・住友クラブにて関西電気機器部会との二業種合同部会として開催した。講演は(株)アシックス グローバル法務・コンプライアンス統括部 知的財産部長 齊藤浩二氏に「アシックスの知財活動 ～昨今の模倣品対策を中心に～」と題して、ブランド保護のために、アジアを中心に回っているシューズの模倣品対策について講演いただいた。全くのデッドコピーや巧妙に意匠・商標逃れをしようとしている模倣品と真正品を回覧して頂き、手に取って模倣の巧妙さを実体験することができた。

#### (5) 第5回部会

例年通り、関西金属機械部会単独の宿泊部会として開催し、初日は神奈川県小田原市の富士

フィルム(株)小田原サイトにおいて、富士フィルム(株)知的財産本部 知財技術部 技術マネージャー 小笠原淳氏に「富士フィルムにおける知財戦略」と題して、急速なデジタル化の進展による写真フィルムの需要減に直面する中で、富士フィルムは「第二の創業」を目指し、保有技術を軸にした事業の多角化を推進してきた。知的財産本部もこのような急激な事業環境の変化に対応すべく、事業部・RD部門と三位一体になった活動を展開しており、①知的財産戦略の再構築、②全社特許ポートフォリオの構造改革について紹介して頂いた。講演後、小田原サイトのコンピュータ用磁気テープや放送用ビデオテープの製造工程とWVフィルムの製造工程を見学させていただいた。

見学後、会場を湯河原温泉のホテルに移動し、懇親会を行った後、翌日の午前にはナブテスコ(株)知的財産部長 菊地修氏に、「ナブテスコ知的財産戦略」と題して講演いただいた。カンパニーのグランドデザインを実現するために、事業のコア価値を知的財産と見定め、その獲得・保護・活用を計り、事業競争力の強化と企業資産価値の向上を実現する知的財産経営戦略とその実行手法を紹介して頂き、知財戦略立案と、知財武装を中心に説明いただいた。

### 3. むすび

当部会は会員数が少ないにも係らず、部会やその後の懇親会等に多くのメンバーに参加いただき、会員相互の活発な交流を図ることができた。最後に、部会の運営にご協力頂きました講師、見学先の方々ならびに日本知的財産協会の事務局の方々に厚く御礼申し上げます。

#### 関西金属機械部会行事一覧

部会	日程・見学先	参加数	演題／講師
第1回 【単独】	6月21日（火） 象印マホービン(株) まほうびん記念館（大阪）	20社 31名	「もしP. F. ドラッカーの理論を知財部に応用したら～新しい知財リーダーのために」 正林国際特許商標事務所 弁理士 正林 真之氏
第2回 【単独】	9月16日（金） オムロン(株) コミュニケーションプラザ （京都）	19社 25名	「サントリーのブランド保護活動」 サントリーホールディングス(株) リスクマネジメント本部 商標部長 高本 知己氏

第3回 【三種合同】	10月28日（金） ～29日（土） 万田発酵(株) 工場・びっくりファーム (広島／福山・尾道)	65社 75名	①「第4次産業革命に知財部門が準備すべきこと」 日本知的財産協会 専務理事 久慈 直登氏 ②「電力システム改革とエネルギー丸の知財戦略」 中国電力(株) エネルギー総合研究所 知財部長 味能 弘之氏
第4回 【二種合同】	12月1日（木） 住友クラブ（大阪）	38社 46名	「アシックスの知財活動～昨今の模倣品対策を中心に～」 (株)アシックス知的財産部長 齊藤 浩二氏
第5回 【単独】	2月24日（金） ～25日（土） 富士フィルム(株) 神奈川工場 小田原サイト	20社 26名	①「富士フィルムにおける知財戦略」 富士フィルム(株) 知的財産本部 知財技術部 技術マネージャー 小笠原 淳氏 ②「ナブテスコ知的財産戦略」 ナブテスコ(株) 知的財産部長 菊地 修氏

## 6. 関西電気機器部会

### 1. 活動テーマ

本年度の活動テーマを「知財活動の活性化に向けて～関西の知財から日本企業を元気に～」とし、具体的には、「他社の知財活動を知り、自社の知財活動の活性化を図る」とした。

### 2. 活動方針

- (1) 他社の知財活動に触れる場を提供する。
- (2) 関西の異業種や関東の電機関連企業との交流の場を提供し、相互作用による知財活動の活性化を図る。
- (3) 活動に参加する層を拡大することで、幅広い情報や意見を交換し人材育成に貢献する。
- (4) 知財部門の活動をきっかけに企業活動を活性化する。

### 3. 活動内容

#### (1) 第1回部会

カワサキワールドのモーターサイクルや鉄道、神戸海洋博物館の船の模型等、約一時間自由見学を行った後、神戸ポートタワーホテルにてセキスイドキュメントサービス(株)の代表取締役社長である石原幹也氏による「積水化学工業の知的財産活動－経営への発信・最近の施策展開－」と題するご講演をいただいた。この講演では、知財として経営にどう関わるのか、知財文化の盛り上げ、強い特許の創出、グローバル対応、開発テーマ企画力向上への貢献など、知財部門の活動内容について説明があった。

#### (2) 第2回部会

関東電気機器部会との合同の宿泊部会として、(株)小松製作所金沢工場の建設機械・産業機械の製造現場を見学した。この工場は、重量物の運搬、リードタイムの短縮など生産性の向上からCO2の削減による「環境にやさしい工場」を実現している。工場内の大型プレス機や大型油圧ショベルの大きさは圧巻であった。その後、知的財産部部長の山口博明氏に「コマツの成長戦略と知財活動の取組み」と題するご講演をいただいた。この講演では、知財に関するビジネス上のリスクを回避し、知財ガードでビジネスの競争力維持に貢献するための具体的な取組みについて説明があった。

#### (3) 第3回部会

関西金属機械部会、関西化学部会との三業種合同の宿泊部会として、エム・シー福山にて、日本知的財産協会 専務理事の久慈直登氏による「第4次産業革命に知財部門が準備すべきこと」と題するご講演と、中国電力(株)知的財産部長の味能弘之氏による「電力システム改革とエネルギー丸の知財戦略」と題するご講演をいただいた。

一つ目の講演では、IoT BD AIは産業に大きな変化をもたらすが、現段階で情報として知っておくべきこと、変化への対応として今から準備できることは何か、についてお話ししていただいた。また、二つ目の講演では、電力自由化などの「電力システム改革」をきっかけに、どのような知財戦略を進めたかについて説明があった。

#### (4) 第4回部会

関西金属機械部会との二業種合同部会として、住友クラブで講演会を開催した。講師は(株)アシックス知的財産部長の齊藤浩二氏で、「アシックスの知財活動－昨今の模倣品対策を中心に－」と題してご講演をいただいた。この講演では、アジアを中心に昨今出回っているシューズの模倣品について事例を紹介して頂くとともに、その模倣品への対策についてご講演をいただいた。講演の中で模倣品の現物も回覧して頂き、手に取って体験することができた。

#### (5) 第5回部会

イーグレひめじにて、アルプス電気(株)知的財産部グループマネージャーの中村麻紀氏に「アルプス電気における知的財産活動」と題してご

講演をいただいた。この講演では、「売上利益に資する知財活動～先んじて作り守る～」をスローガンとして活動しているアルプス電気の知財活動についてご紹介をいただいた。具体的には、2016年から施行されている知的財産取扱規定の紹介や、製品のライフサイクルに合った出願権利化活動などについての説明があった。

#### 4. むすび

本年度の活動テーマに沿って、他社の知財活動を中心にご講演をいただくことにより、会員企業各社の知財活動の参考になれば幸いです。

また、講演会終了後の懇親会は、会員相互の情報交換、人脈形成の場として、今後の知的財産活動に有意になるものと思います。

#### 関西電気機器部会行事一覧

部会	開催日・場所	出席数	内 容
第1回	2016年5月20日(金) 神戸海洋博物館／カワサキワールド 神戸ポートタワーホテル	38社 44名	1. 見学 神戸海洋博物館／カワサキワールド 2. 部会 2016年度運営方針、活動計画など 3. 講演会 前積水化学工業(株) 知的財産部 理事・知的財産部長 石原 幹也氏 「積水化学工業の知的財産活動－経営への発信・最近の施策展開－」 4. 懇親会 神戸ポートタワーホテル
第2回 東西 合同	2016年9月2日(金) ～3日(土) (株)小松製作所 金沢工場	67社 78名 (20社) (21名)	1. 見学 (株)小松製作所 金沢工場 2. 講演会 (株)小松製作所 CTO室知的財産部 部長 山口 博明氏 「コマツの成長戦略と知財活動の取組み」 3. 懇親会 ゆのくに天祥
第3回 三業種 合同	2016年10月28日(金) ～29日(土) エム・シー福山 万田発酵(株)	68社 80名 (28社) (32名)	1. 見学 万田発酵(株) (2日目) 2. 関西部会(会務報告) 3. 講演会 ①(一社)日本知的財産協会 専務理事 久慈 直登氏 「第4次産業革命に知財部門が準備すべきこと」 ②中国電力(株)知的財産部 部長 味能 弘之氏 「電力システム改革とエネルギー丸の知財戦略」 4. 懇親会 福山ニューキャッスルホテル
第4回 二業種 合同	2016年12月1日(木) 住友クラブ	48社 59名 (29社) (36名)	1. 講演会 (株)アシックス 知的財産部 部長 齊藤 浩二氏 「アシックスの知財活動－昨今の模倣対策を中心に－」 2. 懇親会 住友クラブ
第5回	2017年1月13日(金) イーグレひめじ	37社 43名	1. 講演会 アルプス電気(株)知的財産部 グループマネージャー 中村 麻紀氏 「アルプス電気における知的財産活動」 2. 部会 2016年度活動報告など 3. 懇親会 灘菊酒造

## 7. 関西化学部会

### 1. 運営方針

当協会の基本方針にしたがい、下記方針で運営した。

(1) グローバルな知財活動に役立つ情報を提供する。

(2) 知財実務を支える専門情報及び人材育成の為の情報を提供する。

(3) 世代を超えた会員相互の情報交換と親睦を深める交流の場を提供する。

### 2. 部会活動

上記の運営方針に従い、別表に示す通り4回の部会を開催した。

その概要は以下の通りである。

#### (1) 第1回部会

本年度の部会運営方針と活動計画を説明した後、インテリクス特許法律事務所の岩坪哲氏に、「パラメータ特許～その功罪～」と題してご講演を頂いた。この講演では、「偏光フィルム事件(知財高判H17.11.11)」,「東京地裁平成22年(ワ)第28014号特許権侵害差止等請求事件・無効2010-800143審判事件」,「特許第5285177号」を題材に、パラメータ特許の課題点と、いかに利用するか、について権利者側、被侵害者側の双方の観点から詳細にご説明をいただいた。権利者側としては、パラメータ特許の明細書では、当該パラメータの技術的意義が当業者に理解できるように、可能な限り作用機序を記載することが望ましい。また、被疑侵害者側としては、パラメータの技術的意義が理解できないことを論証し、実施可能要件違反(委任省令違反)の瑕疵がないかを十分に吟味すべきである、との解説をいただいた。

#### (2) 第2回部会

本年度の部会運営方針と活動計画を説明した後、「平成27年改正特許法下の職務発明制度に残された課題」と題し、京都大学大学院法学研究科教授の愛知靖之氏にご講演をいただいた。

改正法では、特許を受ける権利の使用者帰属の選択を可能としているが、文言上の「取得」

か「承継」という言葉の問題ではなく、「いつの時点で権利を使用者に帰属させる趣旨か」を、規程上明らかにしておく必要がある。「発明完成時」とされていれば、原始使用者帰属であり、「発明者の通知時」など発明完成時以降の時点とされていれば、原始従業者帰属及び予約承継が可能ということになる。

また、従業者には「相当利益請求権」が付与され、訴訟で、昇進や留学機会などを直接請求することも認められうるが、「留学機会を付与せよ」などといった抽象的な請求は、裁判所が一義的に判断することはできず、請求が棄却される可能性が高い。

利益内容の合理性・不合理性については、利益内容決定プロセスへの従業者の実質的関与を中心に検討すべきである。今回の改正により、不合理性の判断はより手続面重視になったものの、従業者に与えられた利益内容が十分なものであるかを判断することや、利益内容と「発明の価値」とを対比することは極めて困難である。このため、改正後も実体面の考慮は必要である、との解説をいただいた。講演会の終了後、京都大学博物館に赴き、自然史、文化史、技術史の各展示室の見学を行った。

#### (3) 第3回部会

例年通り、関西三業種合同部会(金属機械、電機機器、化学)として開催し、初日の部会・講演会は広島県福山市のエム・シー福山で、懇親会は福山ニューキャッスルホテルで開催した。翌日は会場を広島県尾道市因島に移し、万田発酵(株)の本社工場および「万田びっくりファーム」という試験農場を見学した。

初日は近藤理事長による開会挨拶、久慈専務理事による会務報告後、2件の講演をいただいた。

1件目は、久慈専務理事に「第4次産業革命に知財部門が準備すべきこと」と題するご講演をいただいた。IoT、BD、AIは産業に大きな変化をもたらす。企業知財が今から準備すべきこととして、オープンイノベーションとそのための人材の準備、さらには共同開発から共同ビジネスへの変化が重要である。企業間連携に携

わることの多い知財部門が中心となって、変革をリードしていく時期である、と力強いメッセージをいただいた。

2件目は、中国電力(株)エネルギー総合研究所 執行役員 知財部長 味能弘之氏に「電力システム改革とエネルギー丸の知財戦略」と題して、一昨年4月から始まった広域的な送配電線運用の拡大、昨年4月から全面自由化された電力小売・発電事業、そして平成32年に予定されている送配電部門の法的分離という「電力システム改革」と、中国電力の知財戦略についてご講演をいただいた。

電力自由化進展による経営環境の変化が契機となり、新規参入事業者リスクが高まったが、2003年に「中国電力グループ知財戦略基本方針」を制定し、2007年までに戦略的事業領域において知財での他社優位体制の構築を目指して施策を展開し、エネルギー業界で特許出願件数がトップとなり、特許登録率も94%以上、2011年に知財功労賞（経済産業大臣表彰）受賞等の具体的な成果を上げた。成果に至るまでの道筋について、ご説明をいただいた。

#### (4) 第4回部会

灘浜サイエンススクエア（神戸製鋼発電所）

に赴き、発電所内を見学した。その後、ホテルモントレ神戸に移動し、会務報告につづいて「複合経営における知財活動」と題し、(株)神戸製鋼所 技術開発本部知的財産部長 亀岡誠司氏にご講演をいただいた。神戸製鋼所全体の紹介として、事業構成、代表的な製品技術、技術開発体制や知財組織体制をご説明の上で、全社の知財活動方針や知財アクティビティについてご紹介がなされた。続いて、各事業部門（鉄鋼、溶接、アルミ・銅、機械、エンジニアリング）および関係会社であるコベルコ建機について、業界における位置づけと、それを踏まえた知財活動の特徴についてご紹介があった。さらに、材料系出願の特徴的な事例に関して、具体的な案件を例に取り上げ、ご紹介いただいた。

#### 3. むすび

知財部門が小規模な会員も少なくないにも係らず、部会やその後の懇親会等に多くのメンバーに参加いただき、会員相互の活発な交流を図ることができた。最後に、部会の運営にご協力頂きました講師、見学先の方々ならびに日本知的財産協会の事務局の方々に厚く御礼申し上げます。

### 関西化学部会行事一覧

部会	日程・見学先	参加数	演題／講師
第1回 【単独】	7月20日（水） 知的財産協会 関西事務所 （大阪）	54社 72名	「パラメータ特許～その功罪～」 インテリクス特許法律事務所 弁護士 岩坪 哲氏
第2回 【単独】	9月21日（水） 見学：京都大学博物館、 講演：京都大学楽友会館（京都）	45社 56名	「平成27年改正特許法下の職務発明制度に残された課題」 京都大学大学院法学研究科 教授 愛知 靖之氏
第3回 【三種 合同】	10月28日（金） ～29日（土） 見学：万田発酵(株) 工場・びっくりファーム、 講演：エム・シー福山 （広島／福山・尾道）	65社 75名	①「第4次産業革命に知財部門が準備すべきこと」 日本知的財産協会 専務理事 久慈 直登氏 ②「電力システム改革とエネルギー丸の知財戦略」 中国電力(株) エネルギー総合研究所 知的財産部長 味能 弘之氏
第4回 【単独】	2月28日（火） 見学：灘浜サイエンススクエア （神戸製鋼神戸発電所） 講演：ホテルモントレ神戸 （神戸）	39社 55名	「複合経営における知財活動」 (株)神戸製鋼所 技術開発本部 知的財産部長 亀岡 誠司氏

## 8. 建設部会

### 1. 運営方針

下記方針に基づき今年度の部会運営を行った。

#### (1) 部会運営方針

「会員の啓発及び会員相互の交流と親睦」を基本とし、次世代に向けた参加者個人の成長と会員企業の発展に資する有益な活動を目指す。

#### (2) 部会年間活動方針

- 1) 部会活動および研究会活動を効果的に推進し、会員相互の交流と親睦を図る。
- 2) 世代交代を意識しつつ会員に共通の話題を提供し、参加者各人の研鑽とモチベーション向上を図る。

### 2. 部会活動について

今年度は、会員企業各社内外の世代交代を意識しつつ、部会の年間計画を立案した。

第2回（日帰り）部会と第3回（宿泊）部会の異業種交流行事は、いずれも好評であった。また、2008年度、関東建設部会を建設部会に改称して以来、異業種交流を含まない通常部会としては初めて、第5回部会を関西地区で開催した。なお、女性進出の遅れている業界ではあるが、毎回複数の女性会員が参加していた。

以下に部会各回の概要を記載するとともに、開催記録として別表を末尾に添付する。

#### (1) 第1回部会

出席者全員の自己紹介に続いて、今年度の部会活動方針、活動計画の説明と昨年度の会計報告が行われ、全会一致で承認された。

また、JIPAから西尾事務局長と松戸氏に出席いただいた。

##### a) 講演

「知財担当者の意匠・商標とのつきあい方」と題して、レガート知財事務所の峯唯夫弁理士より講演をいただいた。

意匠については、建設部会会員企業の登録事例を挙げ、類比判断について詳しく解説いただくとともに、部分意匠、秘密意匠、画像意匠の概要についても説明いただいた。

商標については、建設分野における「商標の

力」として、『自社の「強み」（需用者に何を提供できるか。何を約束できるか。）を伝えることができる』、『自社技術の特徴を一言で伝えることができる』、『企業のあり方、理念などを伝えることができる』点を挙げ、具体例を示して解説いただいた。

講演後の質疑応答で、担当された中央大学法学部ゼミにおいて「現行法令ありきではなく、自ら考えて条文を無からつくる」といったユニークなカリキュラムの一端をご披露いただき、次世代を担う学生達へのメッセージに込められた氏の熱い想いが感じられた。

#### (2) 第2回部会〈異業種交流日帰り部会〉

甲州ワインを製造しているグランポレール勝沼ワイナリーにて開催した。ワイン工場の見学は会員企業の皆様からの要望が強く、希望者が講演会場の収容定員を上回り、抽選を行うほどの人気となったが、関西・名古屋・富山地区からの参加者も含まれていた。

##### a) 講演

サッポロHD(株)グループ技術知財戦略部の大嶋利幸氏より「サッポロHDにおける知財戦略」と題した講演をいただいた。

サッポログループの知財部門は、本社をはじめ各事業所・研究所に知財担当者を配置し、技術開発部門と連携し、活動を行っている。飲料・食料品部門における特許は、パラメーター特許や用途発明の重要性が増している等の特徴ある状況があり、この状況に対応すべく知財活動を推進している。

##### b) 報告

JIPA副理事長の櫻井克己氏より、6月3日、国連大学にて開催された「企業経営者向けグローバルビジネスシンポジウム」の概要について、報告がなされた。

##### c) 勝沼ワイナリー見学

工場長の工藤雅義氏より、国産ワインの歩みやサッポロビール社の各ワイナリーについて説明を受けた後、ワイン製造に携わるスタッフの案内でワイナリー内の見学を行った。

見学コースには、自社のぶどう畑（サンプル

を栽培)、製造設備、樽倉庫が含まれていた。ワイン製造に関する苦労話も伺い、ワイン造りに対するこだわりが感じられた。

### (3) 第3回部会〈異業種交流宿泊部会〉

1日目は、東洋紡(株)の庄川工場(紡績工場)を見学し、同社知財部門の講演を聴講した。2日目は、九頭竜川流域防災センターと永平寺を視察した。

#### a) 東洋紡庄川工場見学

東洋紡(株)富山事業所長の吉川雅敏氏により、会社全体および富山事業所庄川工場の概要説明を受けた後、工場内を見学した。

工場内の開発センターでは、IOC新規格(従来より大幅に軽量化)の柔道着や中東の民族衣装であるガンドゥーラ等、展示物を見学した。

その後、整径、糊付、経通し、織機による織布、検査、という織布工程を織布工場にて、染色工程については染色工場にて、それぞれ間近で見学することができた。

#### b) 講演

東洋紡(株)知的財産部の樋口松男氏により、東洋紡の特許、商標に関する取組みについて説明していただいた。

次に、東洋紡における知財関連制度について説明を受けたが、とりわけ、知財リエゾンマンの活躍で発明を発掘するとともに、手厚い知財教育により出願外注率を低く保っている点は、大変参考になった。

最後に、海外における模倣品対策の事例として、インターネット上の不正表示対策、新聞謹告や訴訟例などについて説明していただいた。

#### c) 九頭竜川流域防災センター視察

九頭竜川流域防災センターは、人と川との関わりを楽しく学ぶことのできる施設である。また、洪水時等に備えて緊急資材を保管するとともに、河川情報システムを活用し、地元永平寺町の防災拠点としても位置づけられている。

一同、防災センターの見学後、2004年に完成した現九頭竜川鳴鹿大堰の施設全体を上流側から俯瞰した。また、左岸側階段式魚道の一部がガラス張りになっている魚道観察室に移動し、

体長10cm程度のアユが水中を遊泳する生態を至近距離から観察することができた。

#### d) 永平寺視察

歴史的建造物として、曹洞宗大本山永平寺の見学を行った。若い修行僧の案内により、山門、仏殿、法堂、大庫院、承陽殿、僧堂、傘松閣などの建造物をひとつずつ見て回り、それぞれの施設、仏像、仏具、紋章、装飾品等の起源やその用途を教えていただいた。

### (4) 第4回部会

2017年度の業種担当役員・幹事候補の紹介が行われ、建設部会内での了承が得られた。

#### a) 講演

今回、講演を依頼した大森文彦氏は、東京大学工学部建築学科卒業後、建設会社に勤務し、一級建築士資格を取得。同社を退社後、弁護士資格を取得し、現在は、東洋大学法学部教授でもある。実際に建設工事現場でものづくりをしてきた経験を有する法律家は稀少で、土木・建築生産に携わる者の視点から、裁判例を交えて示唆に富む話題を提供していただいた。

特に、建築物・土木構造物については「設計図に基づいて建設される観念的構造物」という建設分野特有の概念があること、著作物複製の問題では依拠性の証明が困難な場合が多いため、設計(表現)の自由度が大きい部分で類似性を比較検討すると良いことなど、実務に直接役に立つ考え方を習得することができた。

#### b) 特許庁行政報告

例年どおり、特許庁審査第一部から審査官をお迎えした。まず、自然資源上席審査長の中楨利明氏より、「土木・建築分野の特許出願動向」について説明があり、次に、意匠部門環境・基盤意匠審査長の内藤弘樹氏より、「土木・建築分野の意匠出願動向」に関する説明があった。

最後に、会員企業から寄せられた審査等に関する質問15項目に対して、配布されたQ&A資料に基づいて丁寧な回答をいただいた。

### (5) 第5回部会

JIPA関西事務所にて開催。今年度の部会活



動を総括して報告が行われ、次年度の業種担当役員より2017年度の活動計画（案）の説明を受けた。また、JIPAからは近藤理事長と志村関西事務所長に、部会開会から懇談会終了まで出席いただいた。

a) 研究会成果発表

研究会リーダーの田中伯明氏（前田建設工業株）とメンバーの土井俊明氏（大建工業株）より成果発表が行われた。

当部会独自の組織である研究会では、「特許事務所との共生」を研究テーマとし、今年度のメンバーは僅か6名と少数精鋭で、自主運営を基本として精力的に活動を行った。

研究会会合は、例年どおり計5回開催。第1回は、知財管理誌2009年11月号の論説を執筆された中外製薬株の鈴木裕史氏により、「特許事務所活用の現状とこれから」と題した講演をいただいた。続く第2回会合では、調査項目の確認と調査対象とする企業とその取引先特許事務所の候補選定を行った。以降、訪問先のアポイントを取得次第、順次ヒアリングを実施した。

また、当研究会にとって初の試みとなるが、メンバーの自由意志に基づき、JIPA知財シンポジウムポスターセッションに参加した。ポスター制作やシンポジウム当日の会場内説明に

取り組むことで、外部へ情報を発信する貴重な経験が得られた。

b) 講演

「中少数知的財産部門の課題と対策」と題して、発足当初から中少数知財会員フォローアップ研究会をリードしてこられたTOA株の下垣裕一氏と東り株の大野泰寛氏のお二人に講演いただいた。

人的リソース不足に起因する様々な課題をどのように解決していくか、同研究会の種々のアプローチはいずれも実践的で、共感できる点が多かった。

3. むすび

当部会の各行事や研究会の調査活動に際しては、都度ご支援くださったJIPA事務局及び関西事務所の皆様、並びに、異業種交流部会の見学先受入れや知財講演をご快諾いただいた会員企業の皆様のおかげで、年度当初の計画どおりに部会を運営することができた。

また、外部講師や特許庁の方々にも、講演、行政報告と併せて懇談会への参加を賜り、「会員の啓発及び会員相互の交流と親睦」を図るとともに、参加者個人の成長と会員企業の発展に資する有益な部会活動を推進することができた。

別表 2016年度建設部会の開催記録

部会	開催日／開催場所	出席数	内 容
第1回	2016年5月13日（金） アルカディア市ヶ谷	37社 60名	講演：知財担当者の意匠・商標とのつきあい方 講師：レガート知財事務所 弁理士 峯 唯夫氏
第2回 異業種交流 日帰り	2016年7月8日（金） サッポロホールディングス株 グランポレール勝沼ワイナリー	33社 39名	講演：サッポロHDにおける知財戦略 講師：グループ知的戦略部 技術知財グループリーダー 大嶋 利幸氏 報告：グローバルビジネスシンポジウムの報告 報告者：JIPA副理事長 鹿島建設株 櫻井 克己氏 見学：グランポレール勝沼ワイナリー（山梨県甲州市）
第3回 異業種交流 宿泊	2016年10月6日（木） ～7日（金） 東洋紡株 富山事業所庄川工場、他	31社 38名	講演：東洋紡の知財活動 講師：知的財産部 企画・調査・商標グループ マネジャー 樋口 松男氏 見学①：東洋紡庄川工場（富山県射水市） 見学②：九頭竜川流域防災センター、 永平寺（福井県永平寺町）

第4回	2016年12月9日（金） メルパルク東京	40社 63名	講演：土木構造物・建築物と著作権 講師：東洋大学法学部教授・弁護士 大森 文彦氏 報告①：土木・建築分野における最近の出願動向等について 報告者：特許庁 審査第一部 自然資源 上席審査長 中楨 利明氏 報告②：意匠行政を巡る最近の動向 報告者：特許庁 審査第一部 意匠部門 環境・基盤意匠 審査長 内藤 弘樹氏
第5回	2017年2月9日（木） JIPA関西事務所	39社 50名	報告：「特許事務所との共生」に関する調査・研究 報告者：前田建設工業(株) 田中 伯明氏（研究会リーダー） 大建工業(株) 土井 俊明氏 講演：中少数知的財産部門の課題と対策 講師①：TOA(株) 技術本部 知的財産室長 下垣 裕一氏 講師②：東リ(株) 技術開発部 技術管理グループ 知的財産担当 参事 大野 泰寛氏